

所沢市財政トークス

第26号 30年度当初予算
所沢市財務部財政課発行
平成30年5月



ついに“一線(千)”を超えるとき…

平成30年度一般会計予算 1,002億5,000万円

平成30年度当初予算は、一般会計が1,002億5,000万円、特別会計・企業会計を含む合計が1,868億7,635万2千円となりました。一般会計は前年度比約33億円の増、当初予算としては初めて1千億円を超え、過去最大規模の予算総額となります。

「COOL JAPAN FOREST 構想推進事業」や「所沢駅西口地区のまちづくり事業」などが本格的に動き出し、賑わいや活力あふれるまちづくりが一層進むであろう平成30年度、その当初予算に対し所沢市では

「人と自然が調和した ^{あす}未来への扉を開く予算」

とキャッチフレーズを付けました。マチ全体で環境に配慮した行動を実践する「マチエコ」の精神に基づき、将来を見据えた投資によって税収増や地域の活性化を図ります。

平成30年度 一般会計予算の概要

【歳入】

歳入の根幹となる市税は、前年度比4.3億円の増となりました。これは、好調な企業業績等に伴う法人市民税の増などが影響しています。

国庫支出金の増12.2億円は、東部クリーンセンターの延命化や所沢駅西口地区のまちづくり事業など、国庫補助の対象となるハード事業によるものです。こうした普通建設事業費は、資金の借入れを伴うものが多いことから、市債についても前年度比4.7億円の増となっています。

今年度、伸び率が最も大きかったのは地方消費税交付金で、制度改正に伴う配分率見直しなどの影響により前年度比5.6億円の増となりました。

一方で、一般財源の増加により地方交付税は減少が見込まれ、予算額は前年度比22.7%、3.2億円の減となっています。

《歳入予算 款別一覧表》

単位：千円

区 分	当初予算額		差 額	伸 率
	H30年度	H29年度		
市税	51,827,842	51,399,970	427,872	0.8%
国庫支出金	17,889,505	16,669,071	1,220,434	7.3%
県支出金	6,317,105	5,955,799	361,306	6.1%
市債	6,146,800	5,680,300	466,500	8.2%
地方消費税交付金	5,628,000	5,069,000	559,000	11.0%
繰入金	3,626,265	3,404,520	221,745	6.5%
使用料及び手数料	1,492,276	1,480,791	11,485	0.8%
地方交付税	1,090,000	1,410,000	320,000	22.7%
その他	6,232,207	5,870,549	361,658	6.2%
合計	100,250,000	96,940,000	3,310,000	3.4%

【歳出 目的別】

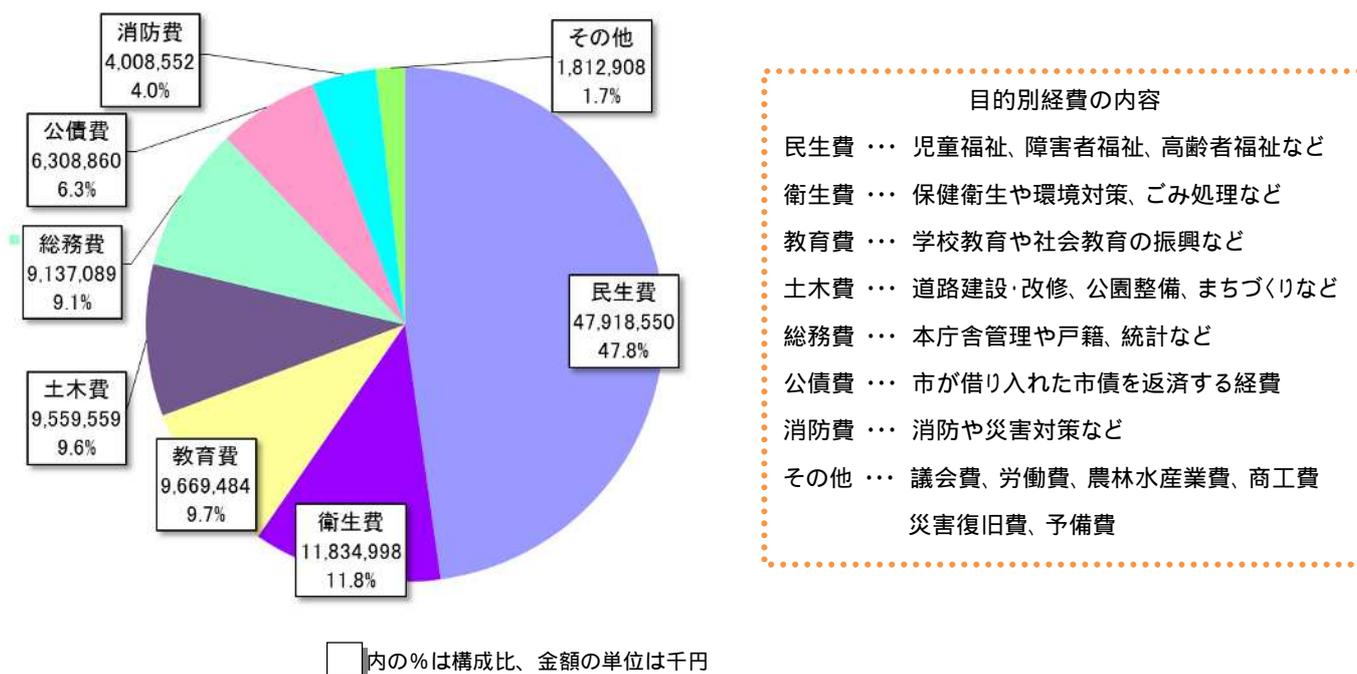
目的別の歳出では、民生費が 47.8%と依然として全体の約半分を占めています。児童福祉費などの増加により、民生費全体では前年度比 2.6 億円の増となりました。ただ、全体に占める割合は、前年度の 49.2%を下回っています。これは、他の費目の伸びが大きかったことを示しています。

最も増加額が大きかったのは衛生費で 15.8 億円の増、次いで土木費の 11.6 億円増と続きます。衛生費は東部クリーンセンターの延命化事業、土木費は所沢駅周辺のまちづくり事業による影響が大きな理由として挙げられます。

教育費も 4.2 億円の増となりました。小・中学校の老朽化対策による施設改修工事費などが大きく増えています。

一方、前年度に比べて大きく減ったのが公債費（ 4.7 億円）です。これは、東部クリーンセンター建設のため過去に借り入れた市債の償還が、平成 29 年度で終わったことによるものです。衛生債償還のための予算は、元金・利子の合計で前年度から 6.1 億円の減となりました。新たに償還が始まる臨時財政対策債分の増 1.9 億円を差し引いても、公債費全体で 4 億円以上の減となります。

《歳出（1,002 億 5,000 万円） 目的別内訳》



【歳出 性質別】

次に、歳出の性質別分析です。

扶助費が全体の 1/4 以上を占めるのは例年同様で、障害者支援費や障害児通所給付費の増などにより、扶助費全体では 5.7 億円の増となりました。

今年度、最も伸びが目立つのは普通建設事業費で、前年度比 26.5 億円、実に 38.5%の増となっています。これまで紹介したハード事業のほかにも、(仮称)第2一般廃棄物最終処分場の用地購入費(3.0 億円)や、COOL JAPAN FOREST 構想事業の一環として行う旧コンポストセンター跡地解体・改修工事(3.9 億円)など、平成 30 年度は様々な普通建設事業が予定されていますが、

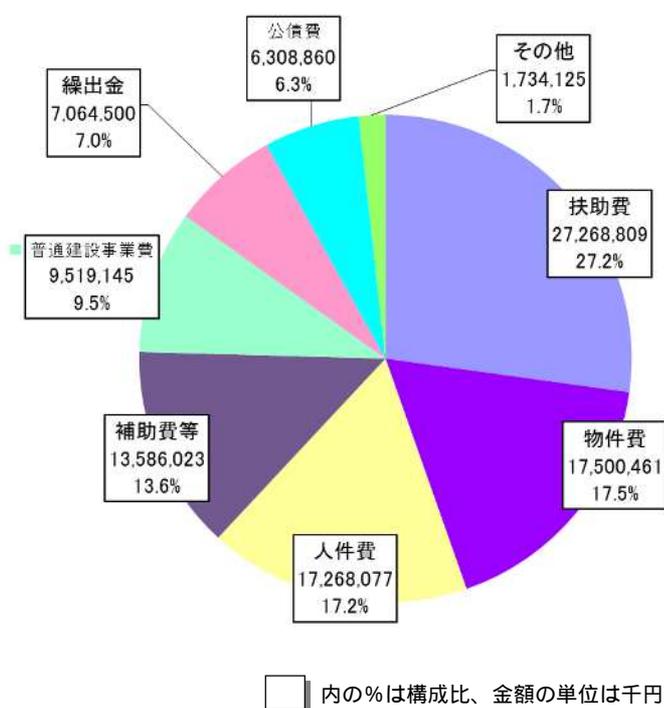
この点が今年度予算の大きな特徴といえます。

一方、前年度に比べて最も大きく減ったのは公債費（ 4.7 億円）です。こちらは、金額・理由ともに目的別の公債費と同様、衛生債の減によるものです。

また、下のグラフでは「その他」に含まれる維持補修費が前年度から 3.4 億円の減となりました。これは、東・西のクリーンセンターで今年度より運営委託が始まったことが原因です。これまで市が直接修理等を行ってきた費用が委託料（＝物件費）に代わることで、維持補修費が減り、物件費が増える要因となります。このため、物件費は全体で前年度比 4.7 億円の増となっています。

その他、前年度に比べて内訳で大きな変化が見られたのが繰出金です。総額では前年度比 1.3 億円、1.8%の減ですが、そのうち国保会計への繰出金が 6.2 億円、一方で所沢駅西口土地区画整理会計への繰出金が 2.6 億円増など大きな増減がありました。国民健康保険事業については、平成 30 年度からの県広域化に伴い、埼玉県 の推計に基づいて予算化が行われています。初年度となる平成 30 年度は、保険給付費等の減により一般会計からの繰出金が大きく減となりました。

《歳出（1,002 億 5,000 万円） 性質別内訳》



- 性質別経費の内容
- 扶助費 … 児童・高齢者・障害者・生活困窮者などに対して支給される社会保障経費
 - 物件費 … 賃金、旅費、需用費、委託料など
 - 人件費 … 報酬、給料、職員手当など
 - 補助費等 … 補助金、負担金、報償費など
 - 普通建設事業費 … 道路や学校等の公共施設の整備に要する経費
 - 繰出金 … 特別会計などに対し支出する経費
 - 公債費 … 市が借り入れた市債を返済する経費
 - その他 … 維持補修費、災害復旧費、積立金、貸付金、投資及び出資金、予備費



（歳出）建設事業費が増えることで（歳入）国庫支出金や市債が増えたり、事業が委託化されることで維持補修費などが物件費に組み替わったり、各予算の増減には、それぞれ様々な関連性があるんですね...

まとめ ~ 平成 30 年度予算の特徴とポイント

ここまで、平成 30 年度予算の費目別内訳を紹介しましたが、最後に平成 30 年度予算の全体的な特徴やポイントをいくつか考えてみましょう。

【ポイント その 1】

「過去最大の予算規模！ 当初予算で初めての 1 千億円超え」

今回の予算で最初に目が行くのが、初の 4 ケタ、所沢市の一般会計予算が 1 千億円を超えたことです。これが望ましいことかどうかは判断が分かれるところですが、少なくとも平成 30 年度は多額の予算が動く年、即ちそれだけ多くの事業やサービスが予定されていることは間違いありません。

ここで注目すべき点は、今回予算総額が 33 億円増えている中でも、市税収入の伸びは約 4.3 億円、前年度比 0.8% 増とそれほど大きくないことです。現在の予算規模の拡大は、人口や事業所数などの増加によって市の財政規模が拡大しているというよりも、国・県支出金や市債などの特定財源を伴う普通建設事業費、また扶助費などの増加がもたらしているといえます。



《県内他市の H30 一般会計予算額》

市名	一般会計予算額
さいたま市	5,544 億 5,000 万円
川口市	1,892 億 1,000 万円
川越市	1,134 億 8,000 万円
越谷市	915 億円
草加市	753 億 6,000 万円
春日部市	711 億 3,000 万円
所沢市	1,002 億 5,000 万円

金額は各市調べによります

【ポイント その 2】

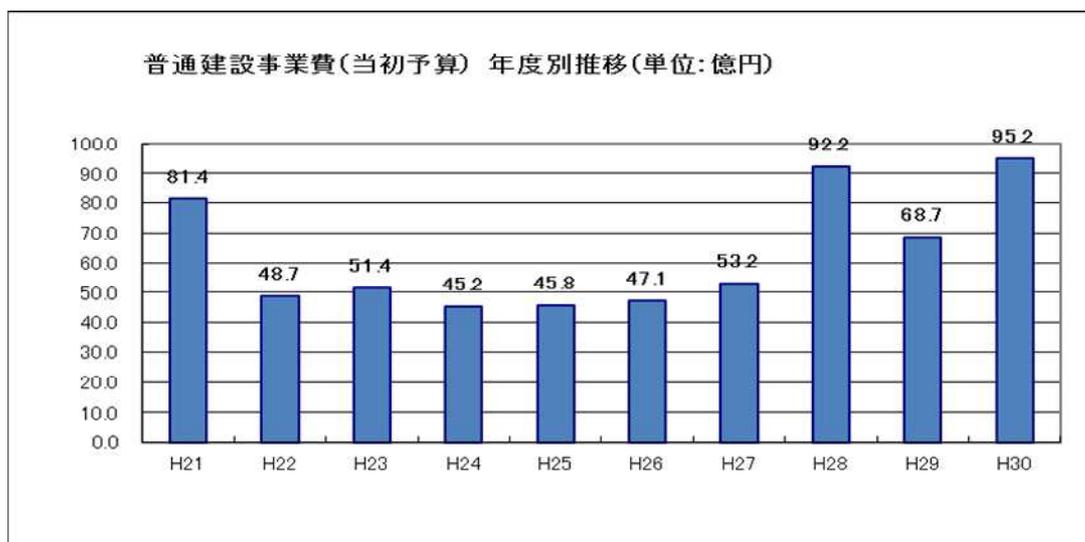
「普通建設事業費の増！ 95.2 億円は過去 10 年で最多」

ここまで繰り返し話題に上がったとおり、平成 30 年度予算の特徴は普通建設事業費が大きな割合を占めることです。最近では平成 28 年度に、西部クリーンセンターの長寿命化や総合福祉センター（こどもと福祉の未来館）の建設などの影響で普通建設事業費の総額が 90 億円を超えましたが、平成 30 年度はこの年をも上回る予算額となりました。

平成 30 年度からの 3 年間で合計 84.8 億円の事業費が見込まれる東部クリーンセンター延命化工事をはじめ、所沢駅周辺のまちづくり事業、COOL JAPAN FOREST 構想に基づく「さくらタウン」周辺の整備事業、また米軍基地を横断する東西連絡道路など、平成 30 年度は大型のハード

事業が集中する時期を迎えています。さらに今後は市民文化センターミュージズの改修なども予定されており、ここ数年間は普通建設事業費の高止まり傾向が続くと予想されます。

なお、過去に今年度を上回る普通建設事業費が当初予算に計上されたのは、平成 15 年度(124.3 億円)まで遡ります。この年には、市民体育館や松井小学校の改築のための予算などが計上されていました。



【ポイント その3】

「例年にはない珍しい予算 “出資金”」

本紙で示す性質別内訳では「その他」に含まれますが、平成 30 年度の当初予算には「出資金」という予算が計上されています。当初予算において出資金が計上されることは近年では珍しく、平成 20 年度以来約 10 年ぶりの計上となります。

今回の出資金は予算額 510 万円で、衛生費に区分される「地域新電力会社出資金」です。再生可能エネルギー普及推進事業の一環として、新電力会社の設立に向けて予算化されたこの出資金は、「マチエコ精神の具現化」を目指す平成 30 年度予算を象徴する経費の一つといえます。

おわりに...

当初予算に数多くの投資的経費が盛り込まれた平成 30 年度は、まさに^{あす}未来への扉を開くための重要な 1 年になりそうです。

投資によって人を呼び込み、マチを活性化し、そして持続可能な行財政運営へとつなげていくため、所沢市はこれからも、^{あす}未来を見据えたまちづくりに努めて参ります。

